

媛っこ地鶏の歴史

開発試験の取組み背景

当场が昭和63年に開発した「伊予路しゃも」は、名古屋種の雌にロードアイランドレッド愛媛鶏試系(以下ER)の雄を交配し、作出されたF₁雌にしゃもの雄を交配した三元交雑の肉用鶏です。その伊予路しゃもは、肉質は良いとされながらも大きな普及がみられませんでした。

その要因には、長期間の飼育や小さな出荷体重、また飼料要求率が悪いことから、必然的に高い販売単価が要求されたものの適わず、生産者の経営を圧迫したことが考えられます。

また、料理についても鍋物や煮込み料理等ではおいしいとの評価を得たものの、季節限定的な要素が強く、年間を通じた食材として用いられることが難しいこともありました。

そこで、「伊予路しゃも」を高品質肉用鶏と位置付け差別化したうえで、「伊予路しゃも」の問題点を克服できる肉用鶏の開発に平成8年から取り組むことになりました。試験では、「伊予路しゃも」の肉質の保持を図りながら大型肉用鶏と交配を試み、早く大きく成長する経済的な交雑鶏を開発し、経営の効率化を図ることで、生産者の負担を軽減することを目的としました。

また、近年の消費者ニーズは、味も価格も高品質鶏とブロイラーの中間的な所に移行してきていると推察されるところから、開発する交雑鶏にはそのような消費者ニーズにも応えられるものを考えました。

取り組みの経緯

平成8年から取り組んだ当該試験では、増体の良さや飼料効率を向上させるため、当初は大型肉用鶏の赤色、白色のコーニッシュ種を中心に試験を行いました。一方、平成11年の特定JAS法の施行によって、地鶏肉や銘柄鶏肉の定義が定められました。地鶏肉の定義として80日以上飼育期間が定められたことから、あまり増体の早いものは生産効率で良いものの、将来的に地鶏肉として取り扱われるための条件をクリアできない可能性があったので、鶏の組合せを再度検討しました。

そこで、大型の肉用鶏ではあるものの増体の緩やかな白色プリマスロックを用いた試験を開始しました。白色プリマスロックは、独立行政法人家畜改良センター兵庫牧場が保有する3系統(13、14、19系統)を用いて、伊予路しゃもとそれぞれ交配し、その成績を比較検討しました。

その結果、3系統による飼養、肉質成績等に大きな差はみられなかったことから、3系統中唯一羽装が有色(横斑)を示す13系統を選定しました。

これによって平成13年度に、伊予路しゃもの雌に農林系白色プリマスロック13系統を交配した当肉用鶏が開発され、平成14年度には現地実証試験によってその性能を確認し、普及推進を図ることになりました。

媛っこ地鶏の命名

この肉用鶏は、新聞広告などを通じて広く公募することで愛称の募集を行い、最終的に県内外から509通もの応募がありました。

その中から、親しみやすさ、覚えやすさ、地鶏のイメージなどを考慮して、平成15年4月21日、『媛っこ地鶏(ひめっこじどり)』と命名されました。

媛っこ地鶏振興協議会の発足

本格的な生産流通の開始に先立ち、媛っこ地鶏の生産振興と普及拡大を図るために平成15年度に媛っこ地鶏振興協議会を設立しました。協議会は、生産者、農業団体、流通業者等によって構成され、雛の分譲計画、飼育基準の遵守、生産販売に関する情報交換を行います。加えて、関係機関と連携し法令や商標等の遵守徹底を会員に対して指導することで、媛っこ地鶏を安全・安心とともに提供できるよう努めています。

媛っこ地鶏の商標登録

愛媛県独自のブランドとして一層の生産拡大と販売促進を図り、広く県内外に発信していくため、愛媛県が商標登録を出願し、平成17年11月25日に登録されました。

県が登録した農林水産物の第一号になりました。(登録商標番号:第4910406号)

愛あるブランドの認定

愛媛県では、えひめ愛フード推進機構では、愛媛の農林水産物の統一キャッチフレーズ「愛媛産には、愛がる」を基本コンセプトとし、安全・安心(人・環境への愛)、品質(産物への愛)及び産地・特産(ふるさとへの愛)の三つの愛を持った県産農林水産物を、ブランド産品として認定する取組みを平成18年度から始めました。

媛っこ地鶏は、平成18年9月29日付けで、リーディングブランド(「愛」あるブランド第33号)に認定されました。